

暫間インプラントと 通常インプラントの併用ガイド

暫間インプラントを有効活用したガイドドサージェリー

渡邊 文彦 先生 日本歯科大学新潟生命歯学部 教授 歯科補綴学第2講座 主任教授

廣安 一彦 先生 日本歯科大学新潟病院 准教授 口腔外科 口腔インプラントセンター センター長

上田 一彦 先生 日本歯科大学新潟病院 講師 総合診療科 口腔インプラントセンター



Dr. Watanabe



Dr. Hiroyasu



Dr. Ueda



before



after

症例概要

上顎右側65432番欠損に対し、暫間インプラントを用いた症例である。暫間インプラントとは、通常のインプラントの治癒期間中に暫間補綴物を支持するものである。通常のインプラントが骨結合を獲得するまでの間、機能性と審美性を維持する役割を果たす。

本症例では即時の咀嚼機能回復を目的として、暫間インプラントの埋入を行い、術前に製作したプロビジョナルを装着した。

インプラントシミュレーション



図1. 術前写真 - 右側面観

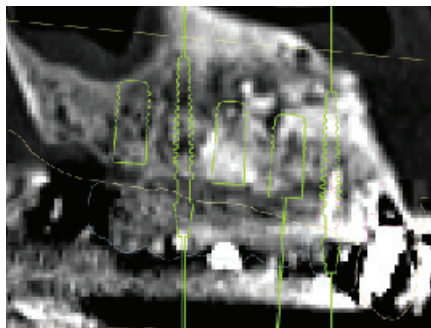


図2. BioNa®での診断。右頬側近遠心断面

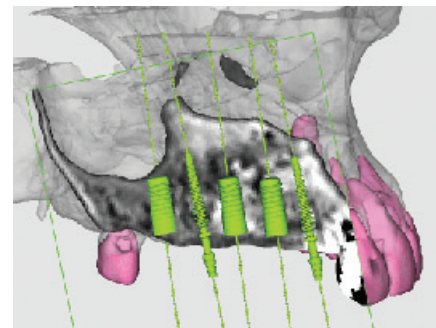


図3. 右頬側近遠心断面3D

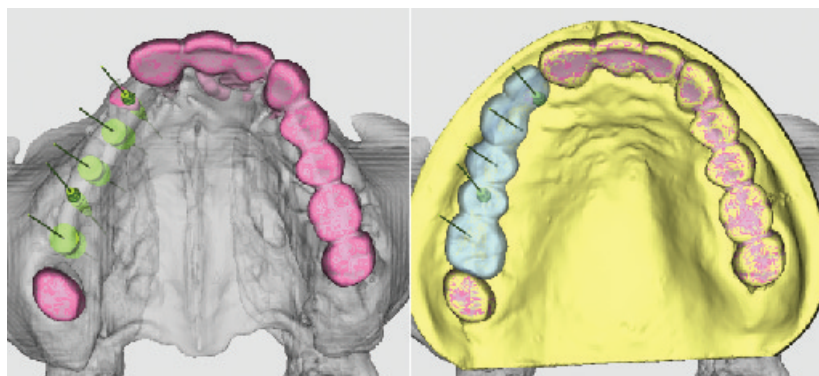


図4. 咬合面観。右図水色部は合成されたWAX-UP

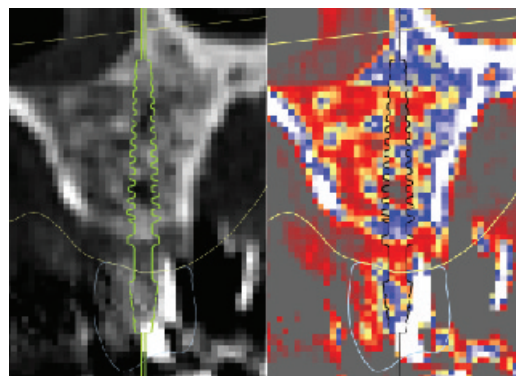


図5. 右側5番部頬舌断面

暫間インプラントの適用条件：初期固定が十分取れる、骨質が良い、咬合が安定している

BioNa®にて骨の状態を診断し、上記適用条件を満たしていたため、右側5,2番部に暫間インプラントを、右側6,4,3番部に通常のインプラントの埋入を計画した。

サージカルガイドを用いた埋入手術

Bone Navi°Systemは、暫間インプラントと通常のインプラントという組み合わせでも、ひとつのガイドで埋入窩を形成することが可能である(図6)。

インプラント埋入後、術前に製作していたプロビジョナル(図7)を装着した。これにより通常のインプラントに負荷をかけることなく、審美性と咀嚼機能を即時に回復することができた(図8-11)。



図6. 完成したサージカルガイド



図7. プロビジョナル

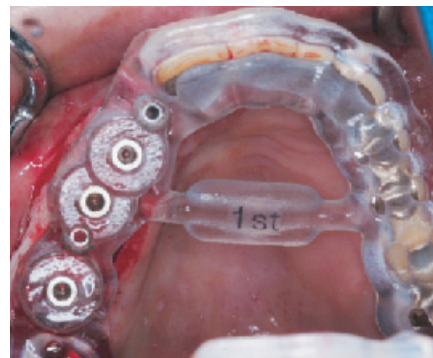


図8. サージカルガイド装着



図9. インプラント埋入完了



図10. プロビジョナル試適 - 咬合面観



図11. プロビジョナル装着 - 右側面観

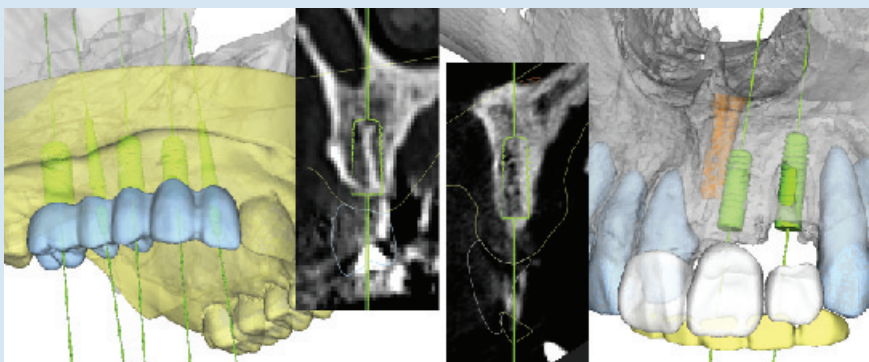
考察

現在、インプラント術前診査のためのCT撮影は必須のものとなっている。さらに、シミュレーションソフトを用いて詳細な治療計画を立案することで、最終上部構造に対するインプラント体の適切な位置を決定できる。また、CAD/CAMにて作製されたサージカルガイドを使用することで、より正確な位置への埋入が可能となり、長期間安定した機能と審美の回復をはかることができる。

近い将来、より安全・安心なインプラント治療を行うために、シミュレーションソフトおよび、埋入手術時のサージカルガイド利用が必須となってくるであろうと考える。

BioNa One Point

最適な治療計画を立案するために



BioNa°ではプロビジョナルワックスアップや対合歯などの合成が可能である。患者さんの口腔内により近い状態でシミュレーションすることができる。